



子どもたちが主役のワークショップを開催

令和8年度中に制定予定の「高知市子ども計画(仮称)」に意見を取り入れるため、子どもたちが自由に話し合うワークショップを行いました。



22チームが激走！ジュニア駅伝競走大会

天気にも恵まれ、参加した各チームが懸命の走りで、たすきをつなぎ、沿道からの多くの声援を受けて力強く走る姿が印象的でした。



庁舎に浮かぶ龍馬プロジェクションマッピング

高知商業高等学校の生徒たちが坂本龍馬にまつわるストーリーをプロジェクションマッピング用に制作し、市役所本庁舎に投影しました。



「もしも」のときの豆知識 10 防災ひとくちメモ

公助(消防の力)には限界があります

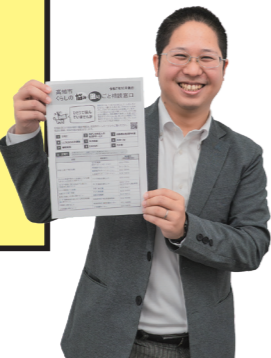
市内の8消防署所には、消防車39台、救急車16台が配備されています。また、消防職員は369人で、市の人口840人に1人という状況です。

南海トラフ地震では、市の被害は最大で死者1万2,000人、負傷者1万2,000人と想定され(平成25年県試算)、発災直後に全ての通報に対応することは不可能です。私たち消防職員は、全力で人命救助等を行いますが、対応できる事案に限られてしまうのが現実です。

一方、住宅耐震化率が100パーセントで、揺れが収まって全員がすぐに避難するなどすれば、死者は860人まで減ると言われています。だからこそ、自助・共助により、あなた自身やあなたの大切な方を守っていただかなければなりません。

まずは、自宅や学校・職場周辺の高さマップを確認し、避難行動を具体的にイメージしましょう。また、地域の防災訓練等に参加し、お互いに助け合う体制を築きましょう。そして、発災時には揺れが収まり次第、すぐに避難してください。災害の規模が大きくなればなるほど、あなたの備えと行動が大切になってきます。

【問い合わせ】消防局警防課 ☎871-7502



work of kochi city 市役所の推しゴト

地域共生社会推進課 編

こんな仕事をしています

- 01 地域共生社会をめざす取り組み
- 02 地域福祉のあり方検討・推進
- 03 在宅医療・介護連携の推進

Check! 相談窓口の一覧ができました お近くの窓口へご相談ください

「だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らせる支え合いのあるまち」をめざし、さまざまな取り組みを進めています。

■さまざまな相談窓口があります 周りの人には話づらい、相談しても解決できない悩みや、どこに相談していいかわからない困りごとは、お近くの相談窓口へご相談ください。相談窓口をまとめたリーフレットをふれあいセンターや窓口センター、オーテピアなどで配布しています。

【問い合わせ】地域共生社会推進課 ☎821-6513

相談内容	相談窓口	電話番号
子育て	子育て支援センター	855-7795
高齢者	高齢者支援センター	843-0475
障害者	障害者支援センター	860-0005
生活困窮	生活困窮者支援センター	820-1025
DV被害	DV被害者支援センター	863-9560
児童相談	児童相談所	825-2255(相談)
労働問題	労働相談センター	825-2847
生活相談	生活相談センター	825-2482
生活相談	生活相談センター	825-2422
生活相談	生活相談センター	825-4492
生活相談	生活相談センター	825-4498
生活相談	生活相談センター	825-6571

column
くらしの中のSDGs
Vol.35
戦後80年、平和を受け継ぎ未来へ

昨年は第二次世界大戦の終戦から80年という大きな節目を迎えました。

市では8月6日を「高知市平和の日」と定め、毎年「高知市平和の日」記念事業を実施しています。昨年は8月1日から7日まで、「戦後80年いま考える〜戦争と平和〜」をテーマに、さまざまな企画を催しました。

企画展では、「核兵器と戦争に関する16の問い展」と題して、来場者それぞれが核兵器や戦争について考えを深められるパネル展示を行いました。さらに、市街地の空襲被害を伝える「高知空襲展」や映画の上映、平和祈念講演会も実施しました。

平和祈念講演会では、ノーベル平和賞を受賞された日本原水爆被害者団体協議会の四国ブロック代表理事をお迎えし、お母様の妊娠中に胎内で被ばくされたご自身のことや、ノーベル賞受賞式での思いなどを交えた貴重なお話を伺いました。

この事業は実行委員会形式で運

営され、行政のみならず市民団体の皆さんとともに、平和への思いをつなぐ活動を続けています。

現在、世界はさまざまな課題が複雑に絡み合い、多くの地域で紛争や対立が続いています。SDGsの中でも、「平和と公正をすべての人に」のゴールは、私たちの人権や日常生活に深く関わる重要なテーマです。地域でお互いに支え合い、誰もが安心して暮らせる社会をつくるのが平和の基盤を強くする一歩につながります。

戦後80年の節目にあたり、過去を語り、今を見つめながら、一人一人が未来へ続く平和のバトンを次の世代へつなぐために行動していきます。

【問い合わせ】総務課国際平和担当 ☎82339955



昨年開催した「核兵器と戦争に関する16の問い展」と題したパネル展の様子

今月のテーマ
16 平和と公正をすべての人に
【ゴール16】

こうちミュージアムネットワーク(ヘリレーコラム)

歴史万華鏡

— unravel the history of Kochi —
(157回)

通りかかった二人

物理学者にして優れた文筆家でもあった寺田寅彦に、「安政時代の土佐」で起こった刃傷事件にまつわる文章がある。事件で詰め腹を切らされた若者の祖母にあたる人が、悲しさのあまり灰のついた手で自分の顔をなで回し、真っ黒になった彼女の顔を見た親族らは、そのような悲惨な状況でも皆笑ったという、いかにも寅彦らしい余韻を残す短章であるが、この話は実際に幕末の高知で起こった事件が基になっていると思われる。

文久元(一八六一)年三月四日夜、高知城西郊の井口村永福寺門前で、上土山田広衛が下土中平忠次郎を斬った。路上でぶつかったことがそのきっかけであったらしいが、忠次郎に同行していた宇賀喜久馬は、忠次郎の兄池田虎之進に急を告げ、現場に駆け付けた虎之進は、路傍の川端で喉を潤していた山田を斬り、山田の同行者であった益永繁斎も斬り殺してしまつた。上土と下土の対立を背景に緊張が高まる中、虎之進と喜久馬が切腹することで、事態はいったん収まる。

井口事件として、「汗血千里駒」や「竜馬がゆく」にも登場するこの一件で、虎之進とともに切腹した宇賀喜久馬は、寅彦の叔父にあたる人であった。切腹する喜久馬の介錯を務めたのは、実兄である寅彦の父利正であったと言われる。

明治の元勳佐々木高行も、「勤王秘史 史佐々木老侯昔日談」の中で井口事件に言及しているが、その談話の中に、忠次郎の遺骸を現場から運び去ろうとした下土たちに、藩法に従って遺骸を動かしてはならぬと諭す、二人の人物が登場する。上土諏訪重中と長屋重名。二人はたまたま現場に通りがかったものらしいが、血生臭い一団を制止するとは、なかなかの豪胆ぶりである。

諏訪も長屋も明治の世では軍人として生きたのであるが、両者ともに画人としても知られた。高知県立図書館は二人の作品をいくつか所蔵しており、デジタルギャラリーでも見ることができ

高知県立図書館 渡邊 哲哉

長屋重名『書窓清供』(部分、高知県立図書館蔵)